

2023年3月30日

日本レムナント大会 (子ども宣教局) 1講目 (子ども向け)

シム・ジュウファン先生

今日、1, 2講で、柳先生を通して神様が語られたメッセージを分かるでしょうか。
わからないでしょう。



いまからずっと黙想して、来年のレムナント大会が開かれるまで黙想すればよいのです。

最近、流れているメッセージの中でいろいろな単語があり、多すぎて分かりにくいかかもしれません。

「やぐら、プラットフォーム、見張り台、アンテナ、サミット・・・」このようなすべてのことは、だれのものでしょうか。

「神様のものです」このように覚えましょう。

見張り人のやぐら
このように頂上に立っていること、
サミットも、もっと高く立てるアンテナも、すべては
神様のものです。



神様がサミット、見張り台、アンテナ、プラットフォームです。

そこから始まって、神様がともにおられるからこそ、私たちが「やぐら」「プラットフォーム」「見張り台」「アンテナ」「サミット」として用いられるのです。

私たち、靈的状態を考えてみましょう。いまは「神の子ども」ですが、以前は「罪人」でした。

「罪人」

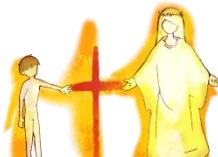
ローマ 6:23 「罪から来る報酬は死です」と書いてあるとおり、死んでいた状態でした。

死んだ人が動くのはおかしいでしょう。

そのように死んでいた状態だったのに、神様が再創造してくださって、神の子どもになったのですが、神様と私たちの間に「イエス・キリスト」があったから、神の子どもになったのです。これがいちばん大事なことです。



すべてが神様によって造されました。私たちも、神のかたちに造られたのに、アダムとエバの罪によって罪人になって死んでしまい、イエス・キリストの十字架によって再創造されて、回復しました。



ですから、私たちがなにかをして、「やぐら、プラットフォーム、見張り台、アンテナ、サミット…」となるのではなく、神様とともにいる、ウィズ、インマヌエル、ワンネスを味わっていれば、神様が私たちを使って、「やぐら、プラットフォーム、見張り台、アンテナ、サミット…」として用いてくださるのです。ですから、私たちが心配することはありません。

イエス・キリストが十字架と復活の前に弟子たちに言われました。

「わたしは天に行くと、聖靈を助け主として送る」と約束してくださったのです。それゆえ、いま聖靈が私たちの中に主人としておられ、私たちを守ってくださり、すべてを教えて、導いてくださっているのです。



ヨハネ 14:26

しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖靈は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

イエス様は、助け主がすべてを教えてくださると約束して下さいました。勉強が分からぬのを教えてくださることではなく、イエス様が語られたすべてのことを分かるようにしてくださるという約束です。ですから、心配はいりません。みことばが分からなくとも大丈夫です。しかし、みことばを、いのりつつ聞くことは必要です。

また、私たちが、がんばって祈る必要もありません。

ローマ 8:26

御靈も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御靈ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。

私たちは何を祈ればよいのか分からぬ弱い存在です。しかし、私のために私の中で、うめきをもつて祈ってくださっている方がおられます。それが聖靈様です。



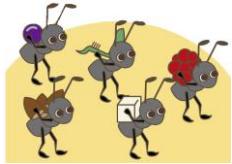
ですから、天地を創造された神様と、神様と私たちを和解させてくださったイエス・キリストと、いまも私の中におられ、すべてを教え導いてくださる聖靈様、その三位一体の神様がともにいてくださるので、なにも心配する必要はないということです。

それだけを握って戻って行けば十分です。

先生の家には、玄関に行くまでに2、3段の階段があります。その横には小さな花壇があります。それゆえ、階段は、「あり」が通って行く道になっています。



子どもたちが玄関の前で遊んでいたので、先生がそばに行こうとしたら、子どもたちが「気をつけて。踏んじゃダメ」と言います。なにかと見たら、ありが並んで移動していました。子どもたちの声を聞かなかったら、踏み殺していたところでした。「私の子どもゆえに、このあたりたちは生きた」と思ったのです。



では、もし、その生かしてもらった、あたりたちが、感謝して、自分たちの大好物の食べ物（くさったもの、死んだ昆虫、ごきぶり…など）をたくさん持って来て、私の玄関の前に置いていたら、どうでしょうか。

うれしくないでしょう。また、その次の日に、もっと多くのありの食べ物がおいてあつたら、どう思いますか。喜ぶことではないでしょう。

同じように、神様がご自分のひとり子を通して私たちを生かしてくださいました。とても感謝でしょう。死んでいた私を神の子どもにしてくださったので、感謝だと、いっしょに勉強して、働いて、なにかうまくいったとお金や物をいっぱい集めて、自分の好きなものを持って神様にささげたら、神様が喜んで受けてくださるでしょうか。

つまり、私たちは、神様のためになにかをする存在ではないのです。

「ただイエス・キリストでなければ、私は死んだままだったんだ。イエス・キリストの死と復活によつて私もよみがえって神の子どもになったんだ」と、この恵みに愛に感謝するしかありません。

私たちが一生懸命にすることによって、残りの人生、2030-2080の未来が変わるものではありません。すでに、最初であり最後である主イエス・キリストが、私たちとともにおられます。それだけを十分に信じて、毎日感謝しながら祈り、メッセージを聞き、礼拝に勝利して祈りに挑戦するように。毎日、朝昼夜、10分ずつ、むずかしければ3分ずつでも大丈夫です。祈ってみましょう。



日本レムナント大会で語られたみことばが、私をどのように導いてくださるのかを見て行きましょう。